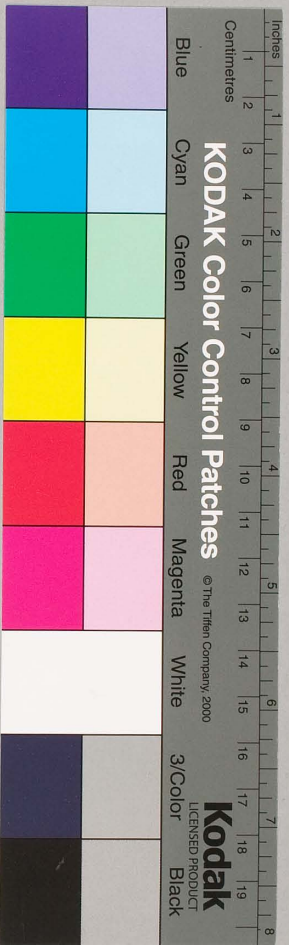


0348



都名所圖會

右白虎

291.6209

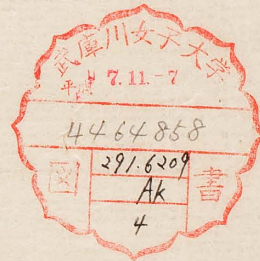
Ak

4

都名所圖會卷之四目錄

右白虎

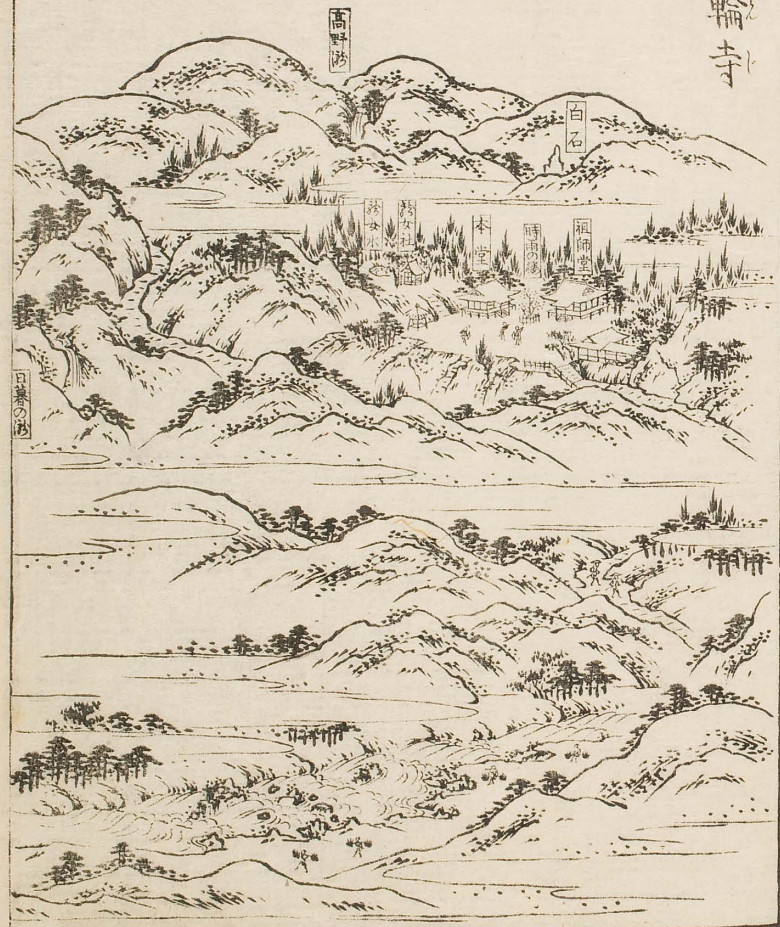
月輪寺	朝日峯	清瀧川	三寶寺	時雨亭	愛宕山龍圖	清涼寺	大澤池	僧正遍昭古跡	野々宮	薄馬場
時雨撥	白雲寺	砥礪化野	小倉山	厭離菴	長明神	暖藏帝塔	名古屋龍	遍昭寺山	常寂寺	龜山
高野龍	搔が原	念佛寺	二尊院	定家古跡	西行古跡	融大塔	相澤池	千代古道	芥川	天龍寺
日暮龍	火伏権現	性生院	澤金剛院	為家墳	車僧塚	大覺寺	廣澤池	麻の聲沙	歌話橋	嵐山



大悲閣	小督塚	大井川	法月橋	千鳥淵
法輪寺	西行桜	安堵橋	常盤社	有栖川
惟子辻	本橋社	梅津川	地藏堂	車折社
牛系圖	華嚴寺	西院春日社	海生寺	左奈原降寺
梅の宮	地藏院	上野橋	桂川	津住寺
華のの宮	大江山	花の寺	龍清水	日野嶽
大原野春日	西行桜	西岩倉	三鈷寺	長岡都
天鼓森	地藏院	華嚴寺	唐槌越	岩嶽
久遠寺	大江山	花の寺	龍清水	岩嶽
大原野春日	西行桜	西岩倉	三鈷寺	岩嶽
栢社	西行桜	西岩倉	三鈷寺	岩嶽

善峯寺	小佐山十勝寺	在原業平塔	水藥師	松尾系礼忌
業平母公塔	西寺古跡	吉祥院天満宮	鳥羽里	實相寺
唐橋	地藏堂	久世里	福田寺	板井清水
貞徳翁墳	鷺尾寺	向日明神	栗生光明寺	長岡天満宮
法傳寺	琴彈橋	羽束師森	乙訓寺	楊谷觀音堂
琴彈橋	山崎	八天王	宗鑑古跡	觀音寺
羽束師森	山崎	八天王	宗鑑古跡	觀音寺
乙訓寺	山崎	八天王	宗鑑古跡	觀音寺
楊谷觀音堂	山崎	八天王	宗鑑古跡	觀音寺
歸海印寺	山崎	八天王	宗鑑古跡	觀音寺
觀音寺	山崎	八天王	宗鑑古跡	觀音寺
宗鑑古跡	山崎	八天王	宗鑑古跡	觀音寺

月輪寺



愛宕山

その
ふた
い
ろ
ろ
も



朝日山

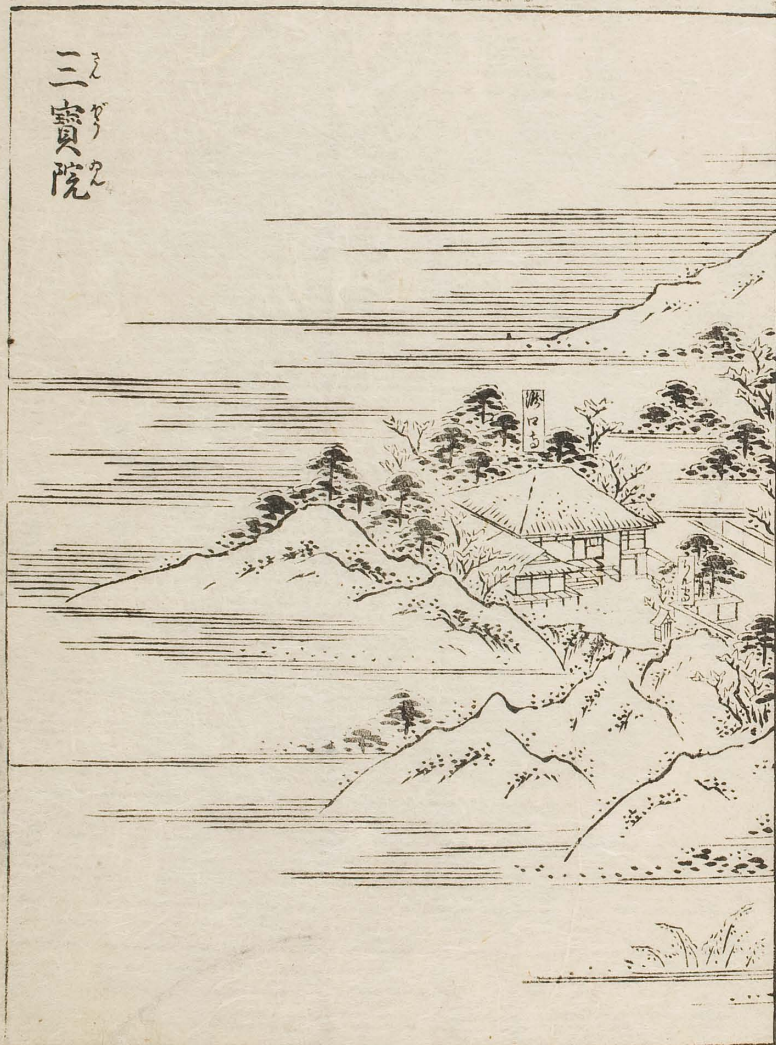


愛宕山のやゝ海王城の乾みと朝日嶽白雲寺と號一は名居り
 坂海又十町ありとてふ試の峠あり清源川後猿橋火煙控規を
 十七町目みわり控の京いれの麓めと南星峯といふ乾れこの嶺を
 いふ鐵の華表は額を表と朝日と表と白を寺と書に
 際しとてふ縁のみ書解ふと清源川に水の白波
 岩根を清源川の早々に波折りうらるる岩れふ波
 波爾は自穀ふれもあてふ控の京れといりて次
 於仲
 奉殿の阿ふ子山権泥りて祭所は井井冊尊火産靈尊之本たる
 將軍地蔵を玄に帝都れ守護しとて火災を永く退めつて
 久代も鷹の峯れかりにありと光に天皇れ清岸天應元年に鷹後
 法師といふとてとて勅傳ぬ一坊は豊原の大將と文武兼有本大守
 元年叙小角泰隆は酒を人の惡患を退治せんとて山の嶽を設るるを
 白雲寺とてふとて思ふに中は清源川に水ありて故に
 御字は尊像に甲冑が帶將軍の形に記しとて當社に建するを勅を

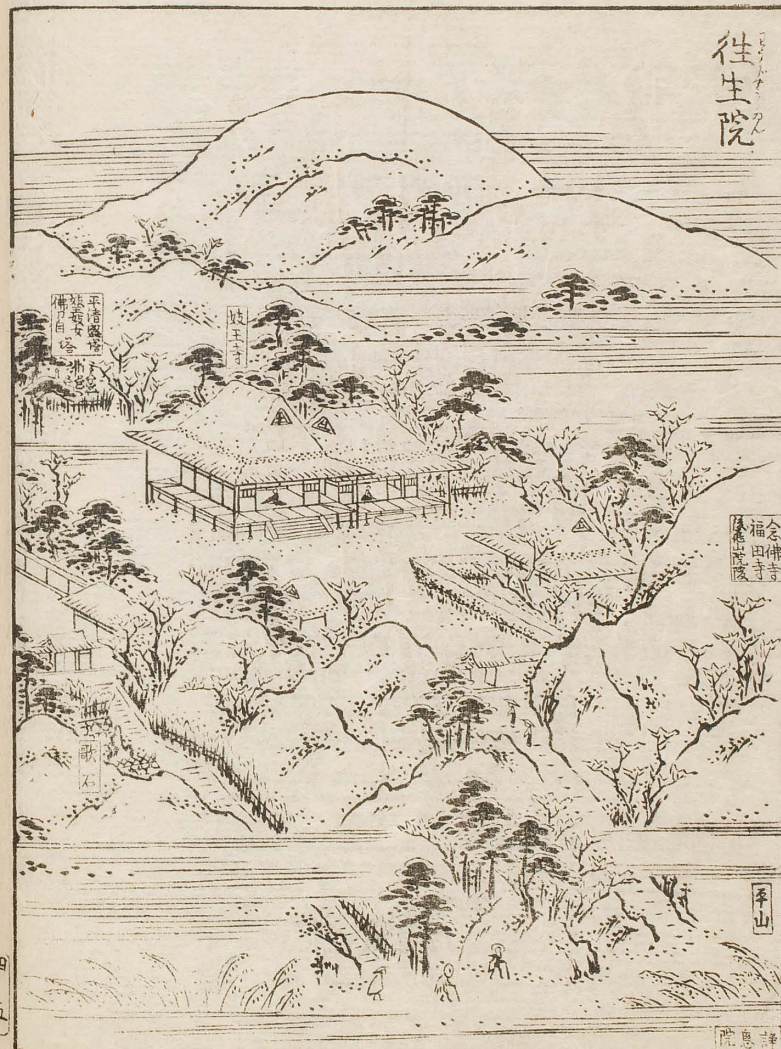
ておれ御願ごがん例祭れいさいを四月中しゅちゅうに亥日がいじつにて神樂しんが二基あり嵯峨清涼さあがせいりやうあり
鎮守ちんしゆ松濟しょうせい縁所えんじよとて野々宮ののみや小振こぶりと神修しんしゆ縁使えんしあり松濟しょうせい六月廿四日りくがつにじゅうよっぴつ
千日せんじつ参りて育そだたり群集ぐんしゆ一月毎いちげつごとに毎ごと日にちも老人らうじん八血はつけつ竹樂ちやくがくなり枝
られ婦人ふじん童子どうしれつちもさう方かたの嶺のりとていふ坂さか路みちに茶店ちやてんふ休
らひ白しろ免めん目のおと接つふあひに土爰つちゑ照てけふ典けんとて足あけまふ松しょうとて松しょう
山城やましろ園ふゆ二ふ烈れつなり高山こうさんありて炎暑えんしよれおも峯みね寒さむふ道みちハ嶮難けんなんなりといふ
も常に諸人しよじんおなりく賑にぎきも只権現ごんげんに盛徳せいとくなり

鎌倉山月輪寺の愛宕の山腹ふあり 鐵の香井なりを下りて 當寺に在る八十一
面觀世音安坐する祖師堂の空也上人親書聖人月輪殿下像あり 七十三町あり
因基の慶俊法師中興の九條関白を改大官兼實公の月輪庵定と稱し
龍女水空也上人は池小出居のり當時當山寒塚湧り龍女婦人化して
り清泉涌出のり龍女如鏡のり今も塔城なり所へ時雨搖堂のあり
覺ふるに當山の用水をきき清く少女のやうあり
小園花遷の時氣實公を掃とせみありしれむ自他の像依遠 觀之のそらば搖
たり時氣を今も狐社の木はさくらに人とりたりとるん

三寶院



往生院





小倉山二尊院は愛宕山南にあり宗吉の

風推

小倉山麓の寺に相おのぬるがくはぐりうの

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

夕方に宿をもちて衣のり

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

後成

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

順徳院

小倉山とせり里の夕方に宿をもちて衣のり

後成

寺は姿より足偏上人の奇特の繪師に名譽ありとて人々奇異
 のものなりふらる是より足引の津和を標しり

法然上人の第二世正信房湛空を徳大寺大居士實証公孫を養抱し

真淨寂然を志源りて浄土門に入て當院を再興し土師に後後院

二代の圓師より實喜上皇帝帰依れ勅命ふはらせ所遺骨を當山に所

塔に納め奉る當山西の三世正上人も後源州院龜山院後宇多院伏見

院に圓師より當院の縁起の伏見宮貞敦親王西三條公條卿の兩帝に

外題の後奈良院の宸翰ありて画土佐光信より大聖文殊の三衣傳

教大師の五條加賀衣慈覺大師の之衣皇慶阿闍梨の袈裟あり

け袈裟の法神現く天竺を熱く其外五鉢等伏見院より所寄附

して當院の什寶あり

黃門定家卿の山莊とい旧地の佛殿のうゝるれ山脈ふありの卿あり

厭離菴
 定家卿古跡





あゝこの世の
竹葉をわけて
鈴をさして樹を
さよめり

桃盛つて

あめりて

ふもさうした

みちとせなり

舜福

檀林寺といふむう檀林皇后は草創されて嚴城に清堂と稱し檀の義野

亡廢しては地は淨金剛院と遷す今に二尊院と稱する

淨金剛院のひひ又黄湯調りといひて

長明神れや一海に二尊院大門のまへに祠ありあり所は檀林皇后は髪を

とひけり又日堂宮内は南二町をりありあり皇后の纏袴とありといふ

裏柳れ社に大門のまへに中院ありあり上衣れ散り所なりといふ檀林

皇后嘉智子の嚴城天皇は寵愛あり西施毛嬙ふも若ぬ美人

薨ぬ人後憲慕愛執のまへに嚴離散させんとて遺命ありあり嚴

城野く系ふ捨ふ具存なり所ふや一ろ嚴建とありありなり

とて

西行法師の房れに長のや一ろれありあり

我もの秋の楨木といふふ小舎に里小室居せしより西行法師

車僧の塚に二尊院のまへに救の中ふ一堆の所ありありありあり嚴城

京極門定家卿の山莊ありし時雨亭と號する舊山といふ所あり
あ卿の孫ありより入りき園を創しを後人あね成りたりと云ふ

いふと種くして謡曲に傳たりたりと云ふ
時雨亭は冬よりありて夏ありたりと云ふ
山倉れ山莊といふ清涼寺西乃門より

二尊院寺との道二町をとりて定家卿の所と中院町といふ
院あり今幾てい半と入る細道あり竹林に後れたる門ありて東小向

所ありと云ふ
それ八厭離庵といふ門の肉小柳れ水といふ清泉あり草庵乃

乃西れる所と云ふと云ふ
西南より高くして中頃より愛宕山麓院

れ領りて唐室とありと云ふ今も破壞して序よりれ庵あり

禪僧ふとあり

小倉山といふ山莊ありと云ふ

小倉山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ

あねの山といふ山莊ありと云ふ
あねの山といふ山莊ありと云ふ



穀
世
堂
一
稱
令

本尊大聖釋迦牟尼佛の立像ありて長八尺五分三厘首羯磨より起り
 脇去りたる身子の立像共ふ厨子の安坐に東西に壇上より文殊普賢を安坐に
 作此尊容に三國の五雙の聖佛ありて釋尊在世にありたりと生身の立像
 なり如來の沛母摩耶夫人釋尊成道よりして後七日に薨ぬべし切利
 天より佛の釋尊成道よりして祇園精舎より四の天より沛母に就いて
 のつと夏九旬の間より此時四衆の軍釋尊成道なるを哀慕するも
 終る優填王は自ら偈作ありたりと尊許よりいさふんと寢を藏に香木赤
 栴檀を以て天より首羯磨ありたり目連尊者は神通成で佛の面
 相なりありありと尊容速に成就して祇園精舎に安坐せり釈迦安
 居の沛法ありて本より歸する其時立像水精の沛形ありて生身ありと
 近いの釈尊立像ありたり涅槃遠よりありて來生の衆生を教化あり
 へとありありと祇園精舎に入るありありと本尊をよきまより唐土に傳へ

宋の代至つて本朝一条院の時宇・永延元年南都東大寺に飛徒法橋齋
後唐一靈告を蒙りて此尊像心感得たりなり帰帆しては辛八月十八日
天聰小達一伽藍と建立し清涼寺と號す以上攝記の

阿弥陀堂アミトドウ
 法雲寺と號を渡成帝の皇子融大兄に營ゆけし妻長姫を融をあり
 本尊の阿彌陀尊を帝の三子と稱す極品盛成帝の御宮ありしを比く

來ておれと罵詈雑言を造り終つて
酒の杯をばなす人々と面と向ひ

五大堂ごだいどう

衆皆直言しゆがいげん言ひて、
の泥より中座二尊廻簾ちゆうざにそんくわいせんして今や吾不

勳大威徳軍叱押二重塔本尊より多宝佛を
 のころ安楽なり安楽なり
 又大堂のおなり塔後醍醐天皇の二塔あり

公宗論池
 傍に親類のひそに慈寧の
 官掛搦 池の傍ふり廣域を思ひの
 どん 津貫 忍ふより吊権糸

四
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

以て、然るに、この牛を乞得て、唐へて三月十九日、命終りけり。其
 牛、小者せり。之を乞得て、唐へて三月十九日、命終りけり。其
 牛、小者せり。之を乞得て、唐へて三月十九日、命終りけり。其

下は華ふやりのゆふ四つ足門とらふ其牛の皮をろど如來の華曼にゆかり今
吉田寺の

什物ものもの 念ねん 念ねん 佛ぶつ 二月ふたつき 八日やふ 壬子みづのえ 年とし 三月みづのえ 十九日いそひ 念ねん 佛ぶつ 身み 身み 式しき 三月みづのえ 十九日いそひ 念ねん 佛ぶつ 身み 身み 式しき 三月みづのえ 十九日いそひ 念ねん 佛ぶつ 身み 身み 式しき

響のふてび
 影のうらなへさすけ
 常ふあ月の月
 寂蓮法師

大澤の池に清涼寺の良あり菊の傍に大澤の中流と天林れや一あり
 けふ今と新池庭湖石あり一付巨勢金園が建一あり
 大澤の池れやたいやうりありふりあり秋の夜月
 大澤の池の玉とのみくれふほろくあり五月多の月
 五所明神の社大沢の西あり名古る跡は具小にあり
 跡は看る人てくくくありぬれと名を流れてたづなれ
 小淵といふ楊れ雙樹あり今うん家
 大覚寺宮の真言宗うて佛殿ふ五丈尊像を尊と弘法大師れ修りあり
 と同基恒寂法師皇子あり代々法親王に任職あり
 大覚寺と号たり一草蒲谷といふ大覚寺れあり
 あり八角堂大澤の西あり後宇多院の陵あり
 相澤池中ふあり長刀坂あり僧正遍照れ四代
 大澤の池の玉とのみくれふほろくあり五月多の月
 五所明神の社大沢の西あり名古る跡は具小にあり
 跡は看る人てくくくありぬれと名を流れてたづなれ
 小淵といふ楊れ雙樹あり今うん家
 大覚寺宮の真言宗うて佛殿ふ五丈尊像を尊と弘法大師れ修りあり
 と同基恒寂法師皇子あり代々法親王に任職あり
 大覚寺と号たり一草蒲谷といふ大覚寺れあり
 あり八角堂大澤の西あり後宇多院の陵あり
 相澤池中ふあり長刀坂あり僧正遍照れ四代

大澤の池に清涼寺の良あり菊の傍に大澤の中流と天林れや一あり
 けふ今と新池庭湖石あり一付巨勢金園が建一あり
 大澤の池れやたいやうりありふりあり秋の夜月
 大澤の池の玉とのみくれふほろくあり五月多の月
 五所明神の社大沢の西あり名古る跡は具小にあり
 跡は看る人てくくくありぬれと名を流れてたづなれ
 小淵といふ楊れ雙樹あり今うん家
 大覚寺宮の真言宗うて佛殿ふ五丈尊像を尊と弘法大師れ修りあり
 と同基恒寂法師皇子あり代々法親王に任職あり
 大覚寺と号たり一草蒲谷といふ大覚寺れあり
 あり八角堂大澤の西あり後宇多院の陵あり
 相澤池中ふあり長刀坂あり僧正遍照れ四代
 大澤の池の玉とのみくれふほろくあり五月多の月
 五所明神の社大沢の西あり名古る跡は具小にあり
 跡は看る人てくくくありぬれと名を流れてたづなれ
 小淵といふ楊れ雙樹あり今うん家
 大覚寺宮の真言宗うて佛殿ふ五丈尊像を尊と弘法大師れ修りあり
 と同基恒寂法師皇子あり代々法親王に任職あり
 大覚寺と号たり一草蒲谷といふ大覚寺れあり
 あり八角堂大澤の西あり後宇多院の陵あり
 相澤池中ふあり長刀坂あり僧正遍照れ四代

忠定



大澤池
 大覚寺

一か
 大沢の池

左側

大覚寺
 五所明神

大澤の池

小淵

廣澤池
遍照寺旧跡



後拾遺

しら波の月夜

ふさふさ

何人もあら

ふきの

秋れ

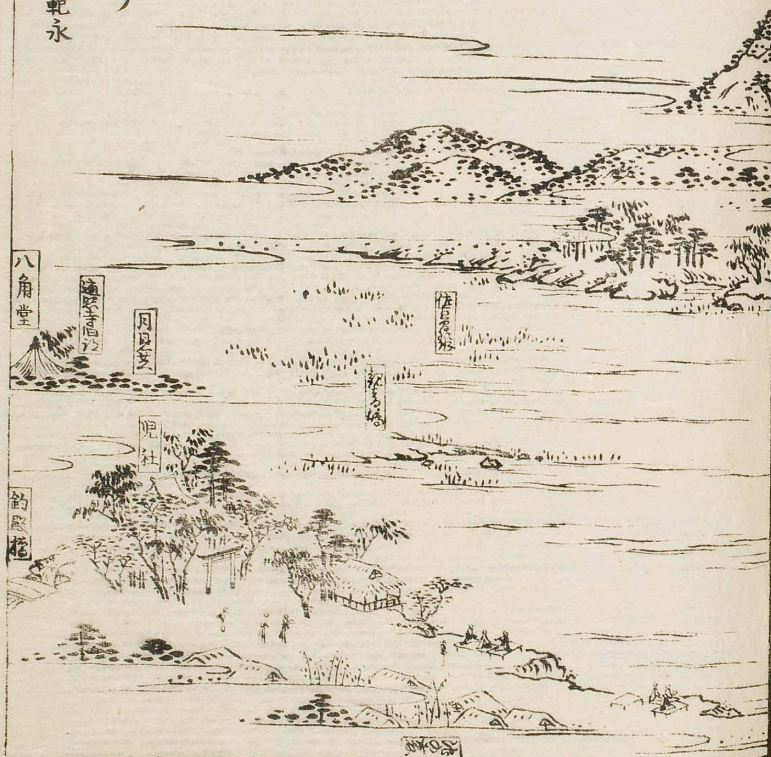
夜ハ

月乃

さし

あり

藤玄範永



廣澤池（風推）は大澤に異なり寛朝僧云は池をほくりぬと云

廣澤れ池の堰の柳うけみよりもつゝ云々（為家）

佐良の石廣澤小まよりつてつりつゝ

後拾

新十

山の堀小堀もかゝるは秋の月まの夜なす中園（為家）

いへへの人けみおきて月のと池々廣澤乃池（保之位）

中秋の月々々と都下の貴勢池の汀小吟（保之位）

千里共みうてくまぬ空けりたみ月も宿る廣澤れ池と堀

も今さうにぬく物悲しく風は鐵雲衣掃く澤くあは月明小

降るそ寒し謝莊の月夜を佐々廣亮と南橋小きる和漢中秋の

月々賞さるる古今小まふ

遍照寺ふは乾向やうと云いり寛朝僧云は池をほくりぬと云

真言與佐々池遍照寺の旧いふは禁ふあり奉尊の十二面觀世音

赤不動共弘法大師の他之（今此の裏村の坐禅石）遍照寺ふは乾向やうと云いり

所へ登天松寛朝は松の堀ありまふ登りしと云いり佐古曾の水（池の西）

系より觀音池（池の乾向あり）遍照寺より呪のやう（池の西の）

寛朝僧云の常小僧とては一見あり寛朝登天の後（見ケ石）坐禅石の

想登て終ふは池水小を投て死と云い見あり寛朝登天の

頭ありて眠る（池の乾向あり）鉤殿（池のやうの傍）池の汀ふあり

鉤殿橋（池のやうの）大道法師足形池（池の西の）屏風（池の西の）

池のふあり青頭山（足形池のやうの）千壺の井（多岐ふふねさるく井あり）

井に燈（池のやうの）石（池のやうの）千代の古道（池のやうの）

千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）

千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）

千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）

千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）

千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）

千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）

千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）

千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）

千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）

千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）千代の古道（池のやうの）

賈島



新古今

下紅藥

解

20

夕
夕

た

4

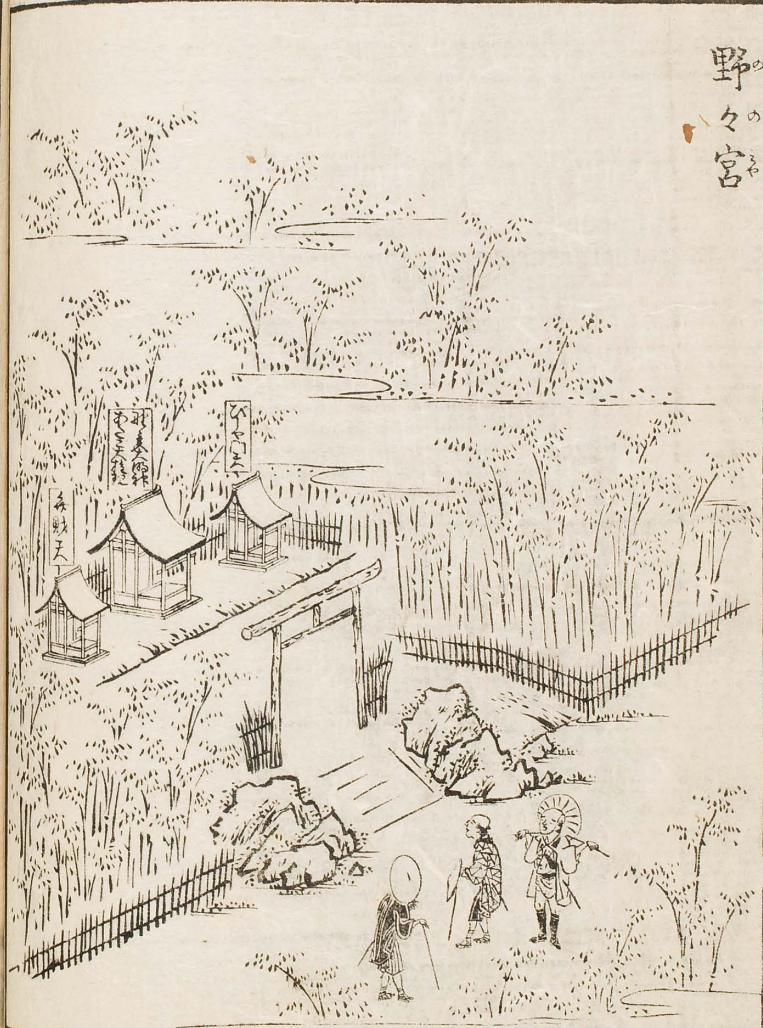
廉北

三

家隆



野々宮



野宮を小倉山の巽する森の中にあり悠記天皇の兩宮ありて神明
城より黒木の多井小芝場いづれへの遺風より伊勢を神宮へ
神宮ふませぬ内親王は所小てせり後めいて後案

ゆふ秋のそめい垂仁天皇の御宇皇女倭姫命あり
例ふより九月上旬若日辰ト定して伊勢を神宮へ
向ひゆりて後多野宮の御宇にはま後め
ゆふ秋のそめい垂仁天皇の御宇にはま後め
ゆふ秋のそめい垂仁天皇の御宇にはま後め

松風の香にれる松の秘伝をけり子日のをりまをそれ
松風の香にれる松の秘伝をけり子日のをりまをそれ
松風の香にれる松の秘伝をけり子日のをりまをそれ

常寂寺を野宮の西ありは花家ありて閑基の日禪上人なり
常寂寺を野宮の西ありは花家ありて閑基の日禪上人なり
常寂寺を野宮の西ありは花家ありて閑基の日禪上人なり

本尊の釋迦多宝に二佛之定家卿の社に南のふふあり
本尊の釋迦多宝に二佛之定家卿の社に南のふふあり
本尊の釋迦多宝に二佛之定家卿の社に南のふふあり

金吾秀秋のふふありて寺を寄附せり
金吾秀秋のふふありて寺を寄附せり
金吾秀秋のふふありて寺を寄附せり

常寂光寺



芥川の野宮のをがを流れ末は大井浜ふさふさ小川わたりむり芥川
殿といふ所あり龜の院御幸あり一所を
芥川の芥川殿
所ありおおいおおく

歌詠橋の天龍寺のま芥川の流れかろ橋より西行法師
け所致通りたすひしやれ奇き小まきとわかれ橋を渡る
あり後小西行むふはまりしより號るとせ

薄馬場は天龍寺に東麻王院のわたりあり
今へは薄馬場殿に侍る
龜の山に侍る人
後醍醐天皇
龜の山に侍る人

離宮強いてるみむせり人回なり

龜の山の仙洞ありの山の極はあまの山なり

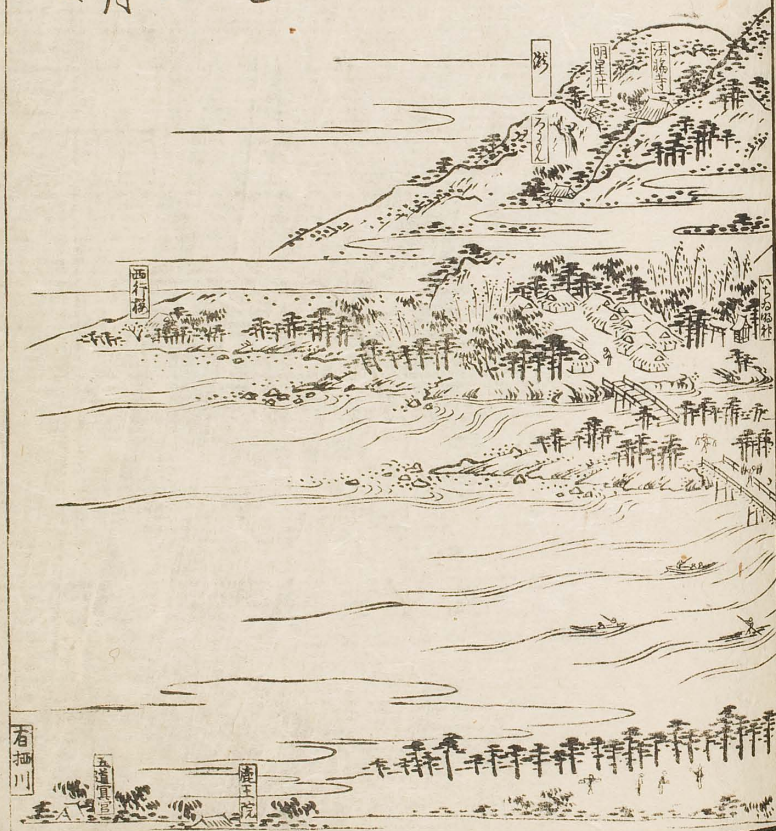
春あふふあひやうをみるの花はふさを宿ふ咲かれ
かあのをれ滝つぼ波あたりふ代の敷より秋の夜乃月
新十
子目もろいつくはあれと龜のをれ岩の松とたけふそ
大納言通成
鳥家



山嵐山
法輪寺
渡月橋



玉葉
又たぐひ
あゝの
ふれ
あゝる
秋の房ふ
有明の
月
後成



新

—

新

後

存

三

饒

叛

乙班

57

とた

1

立不

工續

生花

明

中

道

1888

く

光

卷之六

首

四

庭

竹

卷二

2

古今
 花さくら小春夜
 ことりてよあけ
 見ゆせは
 柳橋を
 みるすて
 都を
 長谷
 錦なり
 々々
 いせの師



骸骨れうへに粧て
 花見の都

鬼貫



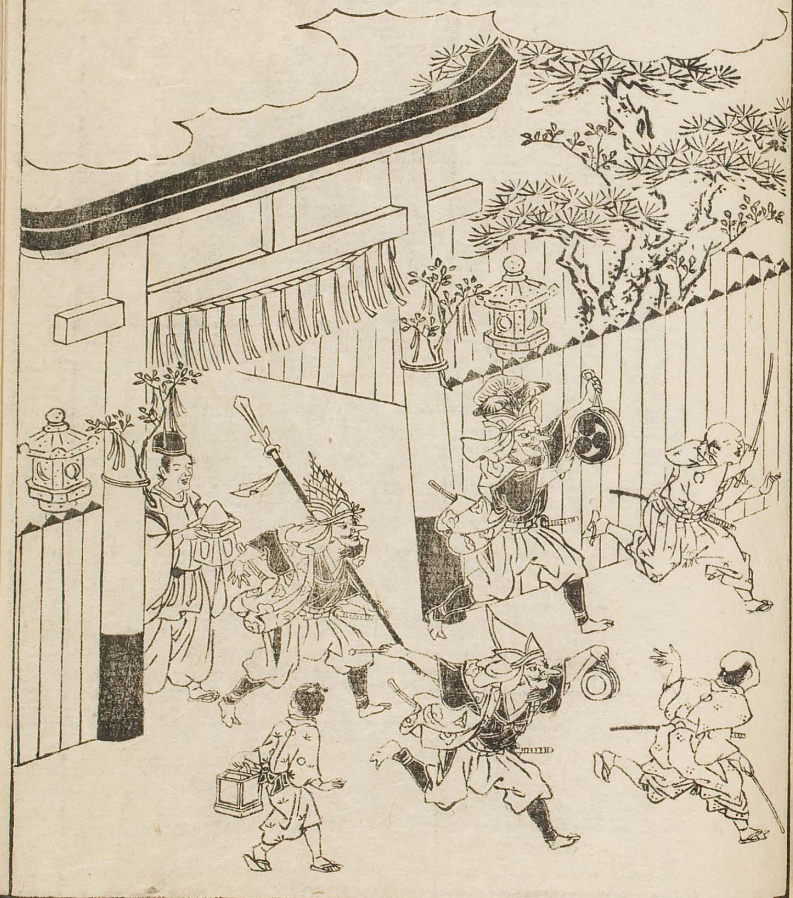


九月十二日
右奈牛糸

聖徳太子
執行
奈久ハ
弘法大師



修
奈久
奈久
奈久



祖師堂 鑑堂の西南あり中央弘法大師の理添大膳南の道昌大僧の像は
 牛乳の神あり當の僧侶又人々大尊の形を著し里の面よりけ風の冠を
 著し法衣を佩そるる帯は拙く牛小衆四人を前後に圍從たるは明教より
 行烈親をくして本尊の像より後遊り又西のより祖師堂のより後よりなり
 象々と後には古の流をなす處を奇みては人形を築きだといふなり

祭文

是以姓乾坤の氣より徳を陰陽の間に保信と專して佛より人徳といつて神は
 天尊地卑の體とあり是非得失の品級を是偏計明の度恩に因茲草微の幣帛を
 さけ敬して摩訶羅神小奉し上宣神の恩に敬慕するなりや是より四番の大荒
 等二を親切に抽て十秒の儀式するに人の逸興を催はれりておのづから神明の法衣を
 侍へ諸衆の感戴をなすに似たり暗に神の御恩を感ずる人々は同様に頭小冠を戴
 くるに足る舊是高衣のけけけのや中々數を大圓をなすなりや是より摩
 馬の終はけてやうなりや中々數を大圓をなすなりや是より摩
 叱羅神と親しむなりや中々數を大圓をなすなりや是より摩
 退くことと先い三面の僧坊の中より入て物々々々人々奇怪といひや
 小數とを本尊のよりなりや中々數を大圓をなすなりや是より摩
 けの板の腹をなすなりや中々數を大圓をなすなりや是より摩
 小向つたなりや中々數を大圓をなすなりや是より摩
 るに鐘樓は華堂のよりなりや中々數を大圓をなすなりや是より摩
 無姓の像ありなりや中々數を大圓をなすなりや是より摩
 の時よりなりや中々數を大圓をなすなりや是より摩
 とくんとをよりや中々數を大圓をなすなりや是より摩
 地藏堂を泰のの留あり古枯社を泰のの留あり古枯社を泰のの留あり

本鳴社



新勅撰
 何のあや
 白の
 音にまが
 うん
 後醍醐

梅宮うめのみや



新築拾遺

けふ今

花候梅の

宮くら

たぐも

ち代の

こうりも

こめ

慶有





まつ尾社

海邊松尾
 祈うと
 松の尾
 山の
 あつひ
 草
 あり
 初ん
 順徳院

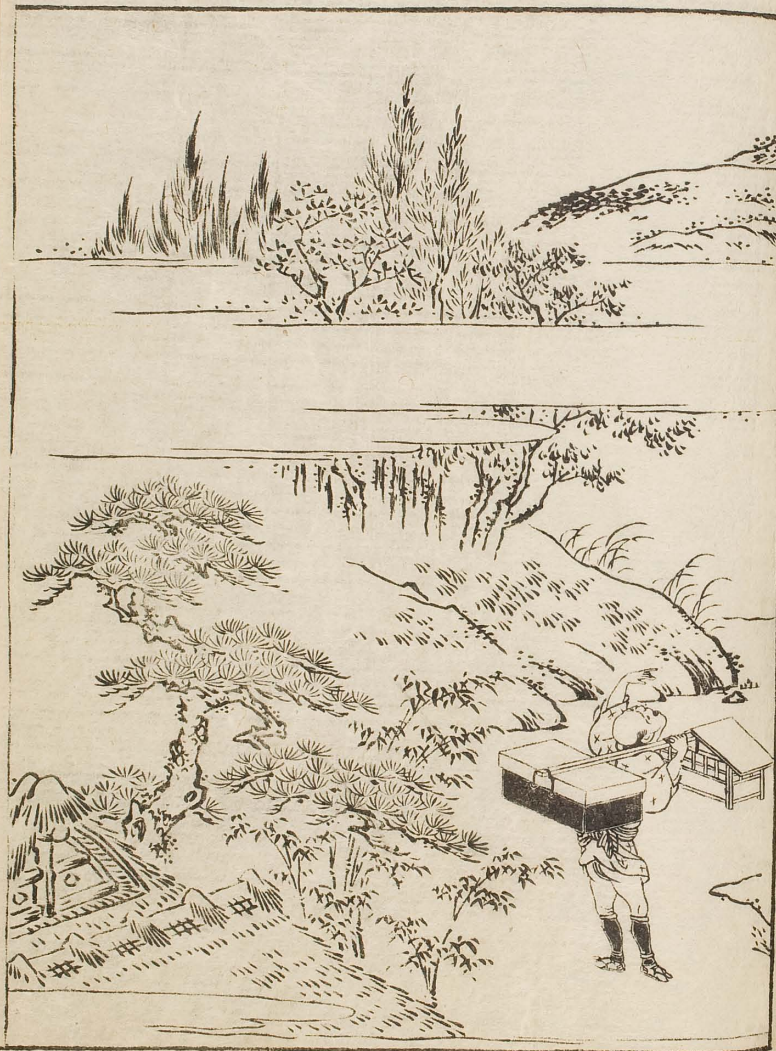
世人を月、胎を當社の砂と販て帶襟は、
 帳とは遺れるなりと云々

熊野之所教、白石
 當社の御祭は四月上ノ申日、社雲二基

延朗の言依信ト三層塔を遠てるは安曇

為氏





俗の西より櫻より春の
 里に合はぬハムネの樹根を
 ちかき方へうゑを鋤き
 子規さんそ非の歌をば
 やうりにつくり夏の月のほ
 びらう旅海へおこしそ
 て沈むる夕陽のあとの
 聲小唄とあそむれど
 花よりやまもれも
 草鹿物ぞ待の如く
 ちう



西芳寺ハ松尾の南葉室あり禪宗ありて本尊阿彌陀佛ハ聖德太子
の傳化あり圓基ハ聖武帝御宇天平年中ハ行基菩薩中興ハ後念
圓師之方丈の意ハ後念の化之庭中の造化四時の風光玄妙ありて此寺
西來堂佛殿ありて本尊ハ後念の像ハ瑠璃殿釣竅菴書院ハ
鑑真の像ハ賣風店小座ありて道徳の廟の縮遠亭絶頂の黃金池船の所
合同船ハ向上園方丈ハ指東菴指東菴船中の佳處ハ船く船面の小菴
指東ハ是真如親王公店の旧地あり
國師ハ室ハ入つて和を和と云ふ

湘南亭中の亭あり潭北軒佛殿の小西あり具庭ハ紫竹七葉
竹ハ士峰一覽貯清の南あり北臺山向ハ所ハ影向石命ハ觀心亭

地蔵尊ありて圓基ハ鏡禪師之愛念圓師の法嗣ありて舊地ハ衣笠
家良公の公莊あり後ハ衣笠細川頼之當寺を建立して諸堂菴あり
應仁の兵火ハ罹て亡廢ハ不動の井衣笠山の
今ハ慶長寺の遺あり

葉室山津住寺ハ禪宗ありて黄檗派ハ本尊ハ如來佛
小者ハ鉄牛和尚感得の尊像ありて圓基ハ興聖菩薩と云ふ所ハ
葉室中納言定然寺に建て閑居あり年々寺廢と云ふ二牛鉄牛和尚
天鼓森小社あり由未未考

文德天皇陵下田の南御靈社中柱村あり橘逸豫と
桂川大井の像あり丹波道あり桂里川の西あり村の村月漢書
上野村ハ西あり小あり橘津の南あり桂里小村あり故ハ號ハを指のあり

廻地藏下桂あり華路七道の一あり
毎歲七月廿四日群衆ハ

久遠寺の挂の西の端あり
 阿弥陀堂 奉尊安阿弥の
 同基の覺如上人あり
 覺如上人塔 堂後
 本社の面より早の半里あり
 の宝藏小叔し寺内震動して此又は所あり
 と略て其の山瑞なり
 あり故に名なり

大枝坂の檜原の西一里ふり
 市場より酒呑童子首塚
 峠地蔵 度ふりて空しくあり
 冥土のくろくを救ひ人々
 唐櫃越 兼堂の南にあり
 大原野 檜原より坤二十町なり

難る啼大原山の機花のりふいありてとく
 藤原實方

大原野春日



春日社の大原野林中あり

古今
二條のきまゝの海で東宮れを所とすへる御
おなつておふはうとさすひたる日あり

三

おりなとく小堀の山とくふりそめ

神代卷之五
部公之

續後

大東此神もろくなんの悪人^{いひ}を武人^{ぶじん}のあつる處^{ところ}に

一條拔政

我々もこのうき世にまゐる。あふ社のものゝやうに

尤大

當社の神武甕瓊命齊主命天津兒屋命姫主神の四座ありて

往昔仁明帝嘉祥三年癸亥冬嗣公以父法（さふ）為（な）南都三聖

ふより勅清一平安城守護神と定め
五條順子路てぬい藤氏の位
行啓ありき家へ移り道の作

遠くへ大系野へ引去れた人の多き故々をとおさんへ御褒へ二月上の卯日仁壽
之氣より嬉々南都薪の神奉り佳くして給ありまの毎葉いあを

保成終乎の老を
まゝに老るる大東野のまゝに老るるをゆきしを世ふのさうに會くをせりく
まゝに老るる大東野のまゝに老るるをゆきしを世ふのさうに會くをせりく

あんな車あんなうつくしく好ふおれ
はこそうつくばいものゝうへに奉らせゆわてうん下者

經理こい池のうみ 社の南あり
 中橋なかつはし 社にあり
 瀬和井せわい 清水しみず 池の傍あり

唐松亭とて甘く井ぬぬ水くき^き庭火い長のち^ち井^いをすれ
大江匡房

山勝持寺を長月社西にあり
専文と号す
宗肯へ主台より奉るに藥

師如來イソ、ムニのイソ、ムニ本堂の額小野道風の争當寺々々イソ、ムニの同基ハ役行者イソ、ムニ

て自他の不動明王と奉尊く大原寺に號と不動尊今堂然奉居伽藍僧坊

十九院魏もとて嚴重きんじゆうなり年経としがひ破壊はかいふるびを佛陀上人再

ありて伽藍とあるものなりと
堂前の丸石にありて
岩窟戸石不動弘法大師の坐なり西行

西行葦室 多一盛の江下の貴族たちを
目下の海をとおして西行の

西のら上
きんぐさうやとを
又二日
土休めやう
石造の下
りぬま
あふるも

里にあり 幸見ゆきみ 万よろず 不ふ あり
 行々ゆくゆく 者もの 窟くつ 不ふ あり
 中うち

傳教大師の修之
木名堂等日修各
及示首象堂内小
白土當ふの

金剛力士と安奈良阿の像
 玄寶石 林の中ありむう
 玄寶僧都

惡鎮アクチン和ワ尚ショウもけ地キは隠カクレれのおい空ソラの妻メケを食クハつてゐる
 墨唐モクドウの他呼タテカレの傍ナドに湛慶タンセイの娘ムスメ、
 時地トキヂは役分ヤクブンひいてゐる

後無
 榮源かみに有あれあやふもどろろふたに世故よこをたててしんて
 愚漢

卷之五



西岩倉
金藏寺



西山
善峯寺





小塩山十輪寺
 中臣師宗
 名跡と
 小塩山
 麻衣
 こしひや
 鳴あうん
 續後拾遺
 著てり
 秋の
 神おん山

西山善峰寺の山あり天合ふて本尊の千手観音あり
 此本尊は後神本殿より行國法師受瑞と云ふ弘法法師と云ふ千手像と
 似たり是は陽華堂の存するもの餘材と云ふ人の像と似る當寺本尊是なり
 阿彌陀堂の本尊は慈覺大師の他二重塔より人如來安坐
 用基の源算上人 舊因州の人あり孤より道のくちを授けられ所の人
 壇重受功と後惠心僧都の資よりなり是を授けられ四十余年坐
 七箇夜坐禪を修め終つて老翁なりといはれし其の生れは山の上人早く
 佛場を建てたりありて人可なりなり其の終るは山の上人なり
 天聰に達し後一條元年長久二年の秋に薨御終つたり
 白山水 當山實光坊より源算上人如來經書写れり仙翁石 經書上人
 白山 推知出現し五杉のまゝに之をくちたり
 観念上人新ありて阿智坂社 當山より七箇の中よりあり
 生禪石あり 觀性法橋慈鎮和尚
 尊圓法親王等の墳當山の山あり
 小塩山十輪寺の山あり蘇小塩里あり天台宗あり善峰小塩山
 本尊の觀世音 花とは皇西國昭れのと云ふ消 服常地藏 條殿皇后安産要の
 車原業平塔 當山の西の塩竈古記 本堂のうしろにあり業平塔屋の系
 潮田池 當寺より一町斗ありあり潮と云ふ所より煙
 あり



水薬師



朱雀権現堂
鳥義塚



まつのぞ
松尾

祭礼



川勝寺ハ西七條の西七町ふあり 所々小あり 今松尾神社の所より西七町ふあり

西寺ハ旧江ノ橋小流にあり 今松尾神社の所より西七町ふあり

唐橋ハ四ッ塚ハ西六町ふあり 秀吉公朝鮮出陣ハ此街道にあり 今松尾神社の所より西七町ふあり

その下流より唐橋通あり 今松尾神社の所より西七町ふあり

吉祥院天満宮ハ唐橋ハ南ふあり 奉社ハ唐橋ハ南ふあり 今松尾神社の所より西七町ふあり

天女を安んず 傳教大師の化あり 今松尾神社の所より西七町ふあり

船中より凡波の瀬ハあり 傳教大師未出の爲ハ入唐ハ別同船

像とあり 傳教大師ハ此像ハ唐橋ハ南ふあり 今松尾神社の所より西七町ふあり

石原井 今松尾神社の所より西七町ふあり

鳥羽里ハ四ッ塚の南あり 上る羽下る羽ハ南流あり

唐橋ハ旧江ノ橋小流にあり 今松尾神社の所より西七町ふあり

あまを安んず 今松尾神社の所より西七町ふあり

病あり 今松尾神社の所より西七町ふあり

後鳥羽院

聖徳太子

聖徳太子

吉祥院
天満宮



上鳥羽
實相寺
貞徳翁塚
地藏堂
まいつら



下鳥羽
戀塚寺



實相寺上鳥羽西側

賜壇小松永貞徳翁の像あり

貴城賊亡のときとあり一が毎方の親族小松永貞徳翁の像あり

蘆丸屋 剛居しむし一所有

應三年十一月十二日

卒八十二歳

これ死すは極小松をいふもよく佛ふらう人やある

あはれいふときの人はいふもよく佛ふらう人やある

こふくに月をうけた世ふす海いやうりふらふ入らん

廻地藏

戀塚

小枝橋

秋山

實相寺の南東側あり六地藏巡の（一）あり
聖立音堂 地蔵堂の南小松あり
聖立音堂の南小松あり
直清あり表塚二つありつづきもあつてある人の日むういやはふらう
年経いねとむしはふらう
小枝橋は町とくり南ありて茶店の向うより鳥羽法皇城離宮宮内へ一時四季の
風景はくろく紅葉はくろく樹をみよと秋のころ今時の風は遠より

後光

新書

衣の羽田に里れ指さくくわたりね秋のふり参

後光

等持院

衣塚寺小枝れ南八町より小あり 堂の南より 銘曰渡も九衛門尉源渡妻

袈裟前秀玉善尼墓 天徳元年甲子年六月廿四日文上人開基衣塚根元の

遠藤藤衣者盛遠 出家して 渡の妻は衣塚にて千束の糸をあるふ其言に

随ひ渡が姿と衣盛を斬りと貞女の操衣がとも世のあら所なり

法傳寺衣塚の南より直に直三宗よりなる其の某師佛衣安並に

行基の位より洛東智恩院後職園智上人は寺小用居して浄土宗と改む

本尊の阿弥陀佛に惠公の他之善導大師像 法然上人像

西山上人の他より方便水 門内の小ありて井を汲む人々ありて

二祖繼圖の像といふ 念仏と書き井を汲む人のいふ名あり

一念寺 開基の真阿弥陀佛といふ 阿弥陀佛は春日にあり

横太治を下る羽の南小橋くむりの通いありあり秀吉公の代は所と

鳥羽の車は貝ハ
多勢難宮
はしくあふ耐
物許ありと
いひゆへや





羽東師の森を

久世の久里

南あて久我

昭れ東にあり

そのうの共

天津兒屋命と

金栗

家の風

ふらねおゆ

そのうの

杜の玄葉

なつてはる

藤原松補

川紅

上久我

開福寺

梅宮

下久我

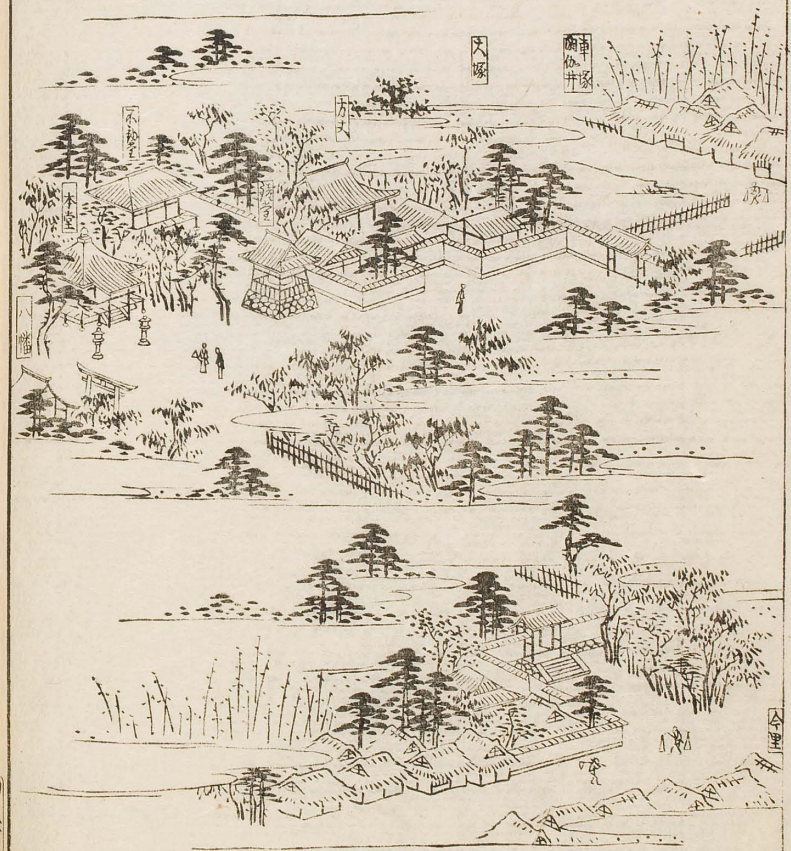
清水

四五五

上久世藏王堂へ醫王山光福寺と號し宗有ハ四ノ義夢めて存るハ
 藏王権現 役行者の他又二王門の け寺の初村上帝の御宇天曆年中より
 淨藏貴所 當寺の 吉野の奥金市藏れ咄ふ縁とて心密法流ひまより
 洛小縁とて一夜夢もあて現すあて藏王権現忽ちてあつた
 のひ宮へ入るは常には絶えざりて神妙のありて今都小縁へあても
 供とて永く有縁は流生はあて貴所奇異はありて若くはひか縁
 と解て肩小結び資に則質奉る法とて忽ち一に忽化して本像となりて
 桂川の西れかりに上りて持しめる縁は流生はあて水さげざりて水の
 切てはあて一の森のふ光明ありてこれに縁天の恵賜とて縁と
 藏王れ神像大石れめりて動る果是有縁れ地と悟り則州度ふと人より
 持念とて一と夜西の切とて大なる柳生た又明天老云あてられ柳小向て
 辨財天醫王善逝と唱へて縁と貴所は縁宮は羽とて縁天縁臨の
 地より今時より藏王権現は地はあて早く仏圖と建て安住せし利益廣大



乙訓寺



大慈山乙訓寺は西園今里にあり當寺は推古天皇万葉集に聖德太子は同基より其後弘仁二年の冬弘法大師別當職に補ハ幡宮に示現後醍醐天皇大師は像彫刻のゆゑに所屬ハ幡宮に現神像をさきのみり足寮法擁護のありしより故に神佛合體の御景といふ當寺の本尊足之御載三月十一日圓牀を又寛平法皇脱履のころ行宮といふ人足はゆつては金さくも名づいみへを方境廣大ありて伽藍嚴重なり中頃南禅寺の伯英和尚住職又武別後持院再興ありて真言宗とありてむ園伽井に乙訓寺の東にあり大師蜜は修りの時及びい一雲弘

今里 ねあふ海

目まを遠の今里坂中を有羽園面に廻るべく 乙訓法親王明星母の今里のふりあり推古天皇離宮ありし所なり



粟生光明寺



報國山光明寺に粟生野にあり宗肯後上り西山流義の一本寺と奉尊國光
大師坐像ありて自他有り法然上人四國へ遷しぬ人師母儀の消息はつて
依りぬ人奉るなり世に張氏の神祇といふ
阿弥陀堂の本尊の惠心僧都の依りて江別堅田澄海堂千體佛の中
尊より熊谷蓮生法師法圓を肩せりてい所おもゆる州府依りて
て安坐に法然上人の廟蓮生の塔は本堂のうしろのふ上にありて石櫃は
阿弥陀堂の傍にありて方丈より御鉢釋尊佛を安坐にそれ
當寺の草創に法然上人の滅後十三年ありて叡山の衆徒念佛
宗の教を承るなりて法然上人の所他選擇集を破して
彈選擇集を并撰堅者定照房らなりて若し陸寛律師のりて
に送る陸寛則具答ふ顯選擇集を述く汝の辭案のありてさる
るを略夜の礫の如しと書け山徒大憤る云塔小龍溪大流
峰起して圓基僧正の後し奏聞依違る陸寛依違流ふりて又
上人の墳墓を破卻せん評義をもちてさるなりて後徒勇まれば

聞て大ふ敬に所墳依他所へうのを今と夜ふ入て人あはる石櫃
と堀出し具外上人所持の親像依りて奉奉米連坊のりて
送る具翌年安貞二年正月ふりて上人の石櫃より光明のやれ
しを米連坊あやしと光のころ依りて奉奉米連坊のりて
粟生野れりて至る則に所に住る幸の法陀佛のをさふ奉り
て具法陀佛の小幸阿弥も不思議の靈告ありて手に合はまう上人
の法弟を奉る石櫃と粟生野のりて是法圓とされ上人の面見れ
存目れぬ則當寺の山腰にありて茶毘を時小忽結して此堂を空
ふあるに異香四方にまはる則舍利を拾て廟堂を造立し淨土
一室の宗廟とす粟生野にありて已上當寺縁記の意とす
惣して當山の辨勝の地ありて山林の陰に室園より人常行念佛
の聲なりて講堂ありて万巻をひいて真如の月と標す秋葉園あり
風流なりて黄金と布の祇陀園といひつべ

當寺の本堂は近代の建なりと始好比
類は後代造との疑なり

奥海印寺寂照院



揚谷観音堂



長岡天備宮

長岡や

田つれ

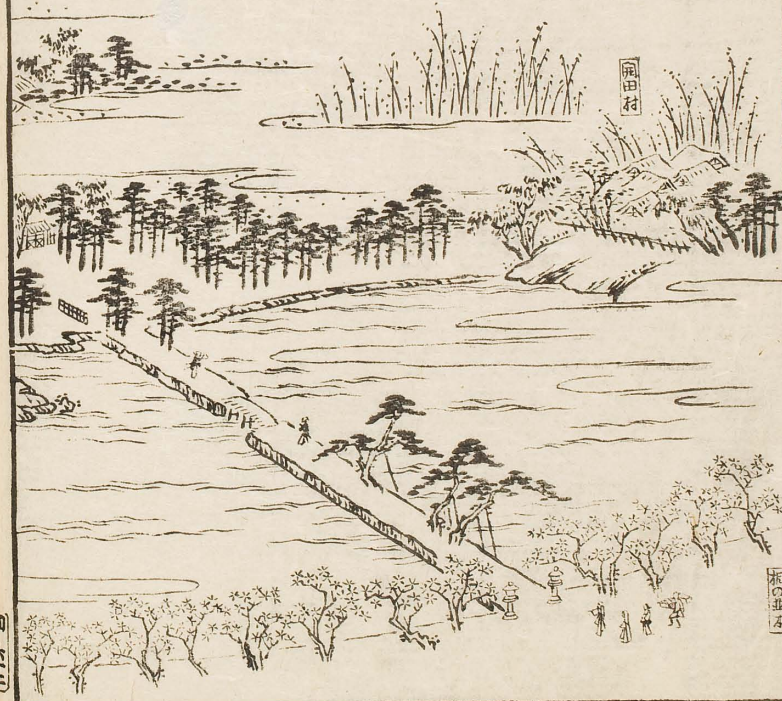
のあ

ま

新あいこ

鴨の

西園寺



小倉明神



小倉のやしろは圓明寺の里に還り十余町西の山林あり本殿は
正一位小倉大明神例祭を四月五日ありてけりやうの産所と
毎歳四月二日に猿樂あり 京六条里氏よりいふ

圓明寺は小倉山の南ふあり本尊は薬師如来ありて聖徳太子乃
所化あり當寺いふへ堂塔魏々として九條殿下光明寺寺道
家公の艸創あり清子園明寺根政實經公晩年ふんで父祖の遺
跡を弁めらば地を山莊と構て閑居しゆに遂にけ所とて竟
ゆへ所墳小倉のやしろの異ふあり

歸海印寺は下植野にあり宗貞直とて本尊は千手觀音 定朝の
化あり
關士は不動明王弘法大師の化地藏菩薩は傳教大師の化ありと
平家三代頼朝やうし平家宗頼少將成常法におなしく歸格あ
らふまに當寺の本尊に祈りて遂に感應をばく秘怨の宣旨は當
成就ゆへに寺にありとて

勝龍寺は城の北神足の東ふあり

島山右衛門佐義就らんと築信長記曰永禄
十年九月廿九日若成主税勝龍寺の城を搦めり



山崎
谷れ観音



大山崎天王の社素盞鳥の御子八王子と鎮座しつゝ鳥居の額に
 野道風行ずり山崎郷中れたゆへ例祭は四月八日なり神事基を
 當社勸請の手代詳々後神殿梁の銘曰養元二年再興と書け今
 尙あり天王山の城文明二年山名是豊赤松一族上洛して城を築く
 観音寺は天王山の東半腹にあり真言宗なりて佛殿の本尊は観世
 立像聖徳太子の他は祖師堂より弘法大師は像と安曇氏本食以空僧正
 中興して今の如く再建あり當寺の客殿より後八幡の山系眼下に渡
 寶寺は観音寺の南あり補陀洛山寶積寺といふ真言宗なりて本尊は
 十一面観音の立像なりて聖武帝行基大士の他は堂内の寶頭雷の像を
 聖武帝の御塔に三重に塔より大日如來と安曇氏當寺の什寶におよび極あり
 聖武帝の御宇龍神奉りり
 妙喜庵は寶寺の麓あり禪宗なりて本尊十一面観音と千利休
 は所小住して二疊交れ園を建ち老古公なりて後所ありて茶は湯ありて
 山崎の橋は桓武帝即位三年小足と造り中流より渡の橋とけと終る今
 舟渡ありて荒川の渡よりつゝへの人衆は南よりて今れ橋が名是と

武庫川女子大学附属図書館

04464858